

9月

菊池高校 人権だより

[発行日]2026年 9月1日

文責 人権教育主任 寺尾寛紀



夏休みが終わり、2学期がはじまります。

こんにちは。いよいよ2学期がはじまりました。7月末の地震は大丈夫だったでしょうか。家族や親せき、知り合いの方は被害にあわれなかったでしょうか。被害にあわれた方に心からお見舞いを申し上げます。2学期は長いですが、クラスみんなや先生に相談しながら、一緒に乗り越えていきましょう。

身近な戦争遺跡から考える「戦争と人権」

今年は戦後81年を迎えます。戦争を体験した人々の話を直接聞く機会は少なくなっています。しかし、私たちが暮らす地域にも、戦争の歴史を伝える場所が残されています。

菊池市泗水には、第二次世界大戦末期に造られた花房飛行場跡があります。昭和10年から軍用飛行場として建設が始められ昭和15年の完成後には陸軍飛行学校も開設されました。その後は多くの飛行部隊が駐屯することになりますが、終戦も近い昭和20年5月14日に米軍機の爆撃にあい、隣接する陸軍航空通信学校とあわせ36名の犠牲者が出ました。現在は当時の面影が少なくなっていますが、この場所は戦争が私たちの地域と無関係ではなかったことを示しています。

戦争というと、戦場での戦いや空襲を思い浮かべるかもしれませんが、しかし、戦争が奪うものは命だけではありません。

○戦争は最大の人権侵害

人権とは、一人ひとりが人間らしく生きるために保障される権利です。しかし、戦争が起こると、その人権は簡単に踏みにじられてしまいます。

例えば、

- 命を守られる権利
- 安全に暮らす権利
- 学ぶ権利
- 自由に考え、表現する権利
- 家族とともに生活する権利 などが失われます。

第二次世界大戦中、多くの若者が兵士として戦場へ送られました。また、空襲によって一般市民の命や生活が奪われました。戦争は、年齢や職業に関係なく、多くの人々の人生を大きく変えてしまうのです。

○「違い」を認めない社会が戦争につながる

戦争の背景には、民族や国籍、思想の違いを認めず、「自分たちだけが正しい」という考え方が存在することがあります。

人を見た目や出身地、文化の違いで差別することは、人権侵害です。そのような差別や偏見が広がると、対立や憎しみが生まれ、社会は分断されていきます。

平和な社会を築くためには、身近な人との違いを認め、お互いを尊重することが大切です。

○花房飛行場跡が私たちに伝えるもの

花房飛行場跡は、「戦争は遠い国や昔だけの出来事ではない」ということを教えてくれます。

菊池にも戦争の歴史があり、多くの人が不安や苦しみを経験しました。その歴史を学ぶことは、過去を知るだけではなく、同じ過ちを繰り返さないためでもあります。

戦争や差別によって人権が奪われる社会ではなく、一人ひとりの命や個性が尊重される社会をつくるために、私たちには何ができるのでしょうか。

まずは、身近な人を大切にすること。相手の立場に立って考えること。そして、差別やいじめを見過ごさないこと。その小さな行動が、人権を守り、平和な社会につながっていきます。

9月16日（水）の人権LHR

9月16日（水）の人権LHRは、出水南中学校校長の田中慎一郎先生をお迎えして、SNSやネットリテラシーについてのお話をさせていただきます。SNSとの向き合い方やこれまでにネット上でのことで悩んだことがある人、また何か不安がある人は特に聞いてほしい内容になると思います。「私は何の問題もないよ。」という人もいるかもしれませんが、近い将来でトラブルに巻き込まれるかもしれません。その備えとしても、知識として知っておいてほしい内容になっていますので、ぜひ耳を傾けてください。

